

茨城大生インターンシップ研修①

人文学部3年 寺門果央瑠

茨城大の学生が、人形劇サークル「あかいふうせん」の指導を受けた。研修は、人形劇の製作から公演までの一連の流れを体験し、地域への貢献や、学生同士の交流を深めた。

子どもに夢届ける 手作り作品、水戸で公演

茨城大の学生が、人形劇サークル「あかいふうせん」の指導を受けた。研修は、人形劇の製作から公演までの一連の流れを体験し、地域への貢献や、学生同士の交流を深めた。

「あかいふうせん」は、人形劇の魅力を伝えるために、地域の子供たちに公演を行っている。今回の研修では、学生たちが実際に人形を製作し、水戸市で公演を行った。

公演の様子。子どもたちは人形と触れ合い、大いに楽しんでいた。また、学生たちも、地域の子供たちと交流を深めた。

「あかいふうせん」のメンバー。今回の研修で、学生たちは、人形劇の魅力を学び、地域への貢献を果たした。

茨城大生インターンシップ研修②

人文学部3年 藤谷 俊介

8日間で行われた、大宮市内の大学のインターンシップ研修。学生たちは、大学の授業や、学生生活について学び、大宮市の様子を知った。

高かった学生意識 60%調査 投票「行く」73%

「行く」と答えた学生が73%と、高い投票率を示した。これは、学生たちが、インターンシップ研修に参加する意欲が高いことを示している。

知事選

知事選の投票率が、73%と高い。これは、市民たちが、選挙に参加する意欲が高いことを示している。

今回の研修では、学生たちは、大学の授業や、学生生活について学び、大宮市の様子を知った。また、市民たちと交流を深めた。

茨城大生インターンシップ研修③

人文学部2年 山田 孝紀

花植える活動に力 草刈り、家主から感謝

被災地で花植える活動に力を入れている。家主からは、感謝の言葉を述べられた。

「花植える活動」は、被災地の復興を支援するために、花を植える活動を行っている。今回の活動では、学生たちが、被災地に花を運び、家主から感謝の言葉を述べられた。

「草刈り」は、被災地の清掃を支援するために、草を刈る活動を行っている。今回の活動では、学生たちが、被災地に草を刈り、家主から感謝の言葉を述べられた。

今回の研修では、学生たちは、被災地の復興を支援するために、花を植える活動や、草を刈る活動を行った。また、家主と交流を深めた。

茨城大生インターンシップ研修④

人文学部3年 浜田すみれ

水戸地域遺産巡り 児童とツアール、参加募集

ユネスコクラブ

水戸市にある、水戸城跡の歴史を学ぶ。児童とツアールに参加募集している。

「ユネスコクラブ」は、ユネスコ世界遺産の魅力を伝えるために、水戸市にある水戸城跡の歴史を学ぶ活動を行っている。今回の活動では、児童とツアールに参加募集している。

今回の研修では、学生たちは、水戸城跡の歴史を学び、児童とツアールに参加募集した。また、ユネスコクラブの魅力を伝えた。

(2013/09/13(金) 茨城新聞 朝刊 地域 A版 19頁)

茨城大生インターンシップ研修 (1) 人文学部3年 寺門果央瑠 茨城大の人形劇サークル

■子どもに夢届ける 手作り作品、水戸で公演

茨城大の学生4人が8月下旬から2週間、茨城新聞社でインターンシップ(就業体験)の研修を行った。新聞社内各部門の研修を踏まえ、大学や地域に出て取材も体験した。それぞれの学生が記事としてまとめた成果を紙面で紹介する。

茨城大のサークル、児童文化研究会の人形劇団「あかいふうせん」による子ども向け人形劇の公演が8日、水戸市堀町の市立西部図書館で行われた。対象は幼稚園児から小学校低学年の児童で、雨の中、多くの親子連れが集まった。

人形劇は全て学生の手作り。年数回行われている公演には毎回テーマがあり、今回は「お友達っていいね」。劇団員である7人の学生が1人1本ずつ脚本を書き、上演作品はその中から投票で選ばれた。

今回は、いたずら好きのサルが友達のイヌを怒らせてしまい、サルがもう困らせることはしないと反省すると、今度はイヌがいたずら好きの性格はサルの良いところでもあると思ひ直し、仲直りするという物語が披露された。

終了後、子どもたちと人形が触れ合う機会も設けられ、子どもたちは「どこから来たのですか」と人形に話し掛けたり、「お人形と遊んだのが楽しかった」と感想を話したりした。同劇団は20年以上も人形劇を続ける。子どもたちに楽しんでもらい、その良さを知ってもらうのが狙いだ。子どもたちに夢や希望を与え、「約束を守る」といった大切なことを学ぶきっかけづくりとなる劇づくりを目指す。定期的な公演のほか、幼稚園などから依頼を受け出張公演を行うこともある。

今回の公演を取りまとめた劇団員は「来てくれた子どもたちが親しみを持ってくれてうれしかった」と語った。

■研修を終えて

責任の重さ知る

地域に密着した新聞の重要性や情報を発信することの責任の重さがよく分かった。今回、学んだことを今後に最大限生かしたい。

(2013/09/14(土) 茨城新聞 朝刊 地域 A版 19頁)

茨城大生インターンシップ研修(2) 人文学部3年・藤谷俊介 知事選

■高かった学生意識 県内3大学60人調査 投票「行く」73%

8日投票日で行われた知事選。投票日前に茨城大などの学生を対象として、意識調査を実施した。投票率の低下が懸念されていた選挙について、学生たちはどんな見方をしていたのか。その結果を報告する。

調査は、8月31日から9月5日まで、茨城大など県内3大学の学生60人から聞き取り方式で実施した。

知事選への関心が「ある」「少しはある」と回答したのは約62%。投票に「行く」との回答は約73%だった。投票に行く理由では「有権者としての義務」との回答が最も多かった。今回の知事選は投票率が「過去最低水準に落ち込むことが予想される危機的状況」(本紙9月3日付)と報じられ、投票日前の取材に対して県選挙管理委員会は「市町村や国政の選挙と異なり、県政は生活と密接に結び付いているという意識が少ないため投票率が低くなる」と話すなど、低投票率が懸念されていた。こうした中で、大学生の投票に対する高い意欲がうかがえる結果だった。

一方、過去数十年間の選挙結果から分析されているように、若者の低い投票率が指摘されている。これについて、県選管は教育委員会と協力し「公民」の時間に「選挙教育を行っている」という。

ただ、現在の選挙教育は「選挙に行くことは当然だ」との観念を教えるだけにとどまるとし、県選管は「身近な問題について、ディベートを行うなどして意見を戦わせることで、自分の意見を持つことや表現することが身に付き、投票行動にもつながるのではないか」と話した。

■研修を終えて 熱意感じた仕事

社会人として働く面白さを知ることができました。仕事に対する熱意を感じました。

(2013/09/17(火) 茨城新聞 朝刊 地域 A版 19頁)

茨城大生インターンシップ研修 (3) 人文学部2年・山田孝紀 東北ボランティア

■花植える活動に力 草刈り、家主から感謝

東日本大震災の被災地を月1回訪れ、奉仕活動を行っている「茨城大東北ボランティア *Fluer (フルール)*」。メンバーが東北ボランティアに参加したことをきっかけに、昨年8月に活動をスタートさせた。同団体は「実際に被災地を見て、復興がまだ進んでいないことを思い、ボランティアを続けたい」と意欲的だ。

フルールは東北の被災地を中心に、草刈りや海岸清掃、花を植える活動に取り組んでいる。特に花を植える活動には力を入れており、震災に遭った人たちの気が休まるような環境をつくりたいという。「フルール」はフランス語で花の意味で、活動の趣旨を踏まえ名付けられた。前後に付く「*」も花にちなんだものだ。

8月には福島県南相馬市の民家を訪ね、畑の草刈りを行った。同市は警戒区域が昼間だけ解除されるようになったものの、畑は耕すことができないほど一面に草が生い茂っている状態だという。

メンバーの2年、両角智則さんは、民家の家主から「若い人が外に出ていこうとしている中、大学生のような若い人が来てくれるのは大変励まされる」と声を掛けられ、活動に力が入る。

フルールとともに活動する石塚観光の綿引薫社長も、自らの経験を生かして若者に震災支援のノウハウを伝えていきたいとし、他の学生にもフルールを起点としてボランティア活動に参加してほしいと期待を寄せる。

フルールは9月も、17～18日に1泊2日で東北地方でのボランティアを行う予定だ。

■研修を終えて 何事にも全力で

仕事に対する取り組み方や考え方にとても刺激を受けた。これからの生活を改め、何事にも全力で取り組みたい。

(2013/09/19(木) 茨城新聞 朝刊 地域 A版 17頁)

茨城大生インターンシップ研修 (4) 人文学部3年 浜田すみれ ユネスコクラブ

■水戸地域遺産巡り 児童とツアー、参加募集

茨城大の学内サークル「ユネスコクラブ」が10月20日、小学生を対象とする「水戸市ちいきいさんツアー」を実施する。弘道館や水戸東照宮など同市内の地域遺産を子どもたちと共に歩き、歴史と文化に触れるツアーとする計画だ。同クラブは参加する小学生を募

集している。

同ツアーは弘道館などのほか、市水道低区配水塔など市中心部の地域遺産を巡る。簡単なクイズを交えながらそれぞれの場所を紹介し、東照宮では正しい参拝作法の指導や祈祷（きとう）体験も予定している。

富士山が世界遺産に登録され、国内各地の文化遺産に注目が集まる中、同クラブは小学生に身近にある地域財産を知ってもらおうと、ツアーを企画した。

同クラブは水戸ユネスコ協会の団体会員として登録。同協会青年部として活動し、子どもたちに世界の国々を紹介する「国際講座」などを開いている。

同クラブメンバーの2年、綿引章夫さんは「水戸市内には国内でも有名で、他に誇れる遺産がある。地域遺産を学びながら、子どもたちに水戸をより好きになってもらいたい」と語る。

当日は午前中に実施する予定。市外からの参加も可能で、参加費は300円（レジャー保険込み）。保護者の参加は自由。問い合わせは同クラブのメール [I b a d a i . U n e s c o . C l u b @ g m a i l . c o m](mailto:Ibadai.Unesco.Club@gmail.com)

■研修を終えて 新聞発行へ役割

新聞を発行するためにさまざまな役割があることを実感した。この経験を生かし、より地元に着目を持って勉学に励みたい